

2010.10
OCTOBER
vol.13



独立行政法人国立病院機構

呉医療センター・中国がんセンター

広島県呉市青山町3-1 TEL 0823-22-3111 (夜間・休日 TEL 23-1020)

<http://www.kure-nh.go.jp>

発行責任者 呉医療センター院長 上池 渉



油絵 「新雪の穂高岳」 十五人会 坂田 義雄
(展示場所: 地下1階投薬室右横)

独立行政法人国立病院機構呉医療センターの理念

- 患者さまに信頼される質の高い医療をめざします。
- 患者さまの生命と人権を尊重します。
- 職員が誇りをもって働ける病院をめざします。
- 自立した健全な運営をめざします。

CONTENTS

Queen Sirikit National Institute of Child Healthとの姉妹病院提携調印式

およびGlobal Pediatric Health Care 2010での学会発表に参加して … 2～3

「産科」について … 4

「婦人科」について … 5

「小児科」について … 6

「腎臓内科」について … 7

骨粗鬆症(こつそしょうしょう)の検査をしてみませんか? … 8

マンモグラフィ検査について … 9

切れ目のない医療・介護を目指して … 10

職場紹介8B病棟 … 11

職場紹介9A病棟 … 12

第45回 呉看護学校学校祭 … 13～14

平成22年 呉看護学校一日体験入学 … 15～16

編集後記 … 16

Queen Sirkit National Institute of Child Healthとの姉妹病院提携調印式 およびGlobal Pediatric Health Care 2010での学会発表に参加して

救命救急センター副看護師長 中原孝子

平成22年8月18日にタイ王国のQueen Sirkit National Institute of Child Health病院（以下QSNICH病院と記す）との姉妹縁組調印式およびGlobal Pediatric Health Care 2010での学会発表に出席させていただきました。上池院長を筆頭に、谷山臨床研究部長、佐村産科医長、病理診断科田中技師、看護部小杉教育担当師長、私を合わせて総勢6名での参加となりました。



調印式に出迎えてくださった病院職員の皆様

QSNICH病院はバンコク市内にあり、病床数402床、年間入院患者約2万人、年間外来患者3万5千人が利用し、「子供に対し、ステリッな標準医療を提供するために教育・研究・トレーニングプログラムにより医学的知識を開発すること」を病院の任務とする、タイの小児医療を担っている小児専門病院です。18日朝、9時より行われる調印式のため、QSNICH病院に向かいました。タイの渋滞は日本以上であることは知っていましたが、予想以上で、ひやひやしながらもなんとか到着しました。玄関に到着すると、タイの民族衣装を身にまとった病院職員が多数出迎えてくださり、その職員の美しさ（女の私から見てもvery beautifulでした!）と最高のおもてなしに心打たれつつ会場に向かいました。調印式が行われた会場はとても広く、当院の地域研修センターの約2倍程度あり、南国らしく美しい花々で飾られており、職員

も多数参加され、QSNICH病院のスタッフによる民族音楽の生演奏が流れるなど、盛大かつ心温まる歓迎にとっても感動しました。調印式に先立ち、タイ国厚生省事務次官より開会の挨拶と祝辞がありました。その話の中でタイはまだ患者の権利意識が欧米諸国や日本と異なるものの、徐々に向上してきており、それに伴う医療スタッフの負担も増大し、医療者のストレスマネジメントも重要となるという主旨の話がされました。国民性や習慣・宗教的な相違はあるにせよ、日本において現在、大きな社会問題になっている内容であり、医療者としての倫理性を振り返ることができました。続いて、調印式が行われ、上池院長のスピーチの後、タイ国厚生省事務次官立会いの下、会場の壇上に上池院長・谷山臨床研究部長が上がりQSNICH病院長であるDr.Sirapon Swasdivornが署名し、両病院間の友好・交流を目的とした取り決めの締結がなされました。サインの交換がなされたのち、お互い握手が交わされると、会場から写真を撮るフラッシュがいたるところからたかれ、大きな拍手が起こりました。この瞬間に立ち会えたことに大きな感動を覚えました。その後、私たちも壇上に招かれ、記念写真を撮っていただきました。

調印式に続きタイ・シンガポール・日本3カ国共同の学会「Global Pediatric Health Care 2010」が開始され佐村産科医長「Clinical study of perinatal outcome in obese pregnant woman」および病理診断科田中技師「Auto-analysis of Immunohistochemical Findings for Breast Cancers using Specified Software and Virtual Microscopy」の研究発表が行われました。お二方とも、英語での発表であり、とても堂々とした態度で発表されました。その後、意見交換会が行われました。その内容は、QSNICH病院の行っている医療についての説明および、佐村医長の学会発表についての意見交換がなされ、

QSNICH病院医師も佐村医長の研究内容に強く関心をもち、熱心な議論が行われました。

午後よりQSNICH病院および隣接する当院のもう一つの姉妹病院であるRajavithi病院の視察を行いました。もっとも印象的であったのは、重症患児を収容する病棟で、日本で言う呼吸理学療法の一つであるタッピングおよび吸引手技を実際に看護師が行っている場面に遭遇したことです。その方法やそれに使用できる物品の質や量は違うにしても、看護ケアの一つとしてその共通性を感じました。そして、姉妹病院として、それらの違いの中で、そのケアの根拠や方法論・評価などを、看護実践レベルや研究などで交流を持つことができれば、さらに自分た



意見交換会の風景

ちの看護実践の良否を裏付けられるのではないかと考えます。また、これまで私自身、日本の他施設、とくに先進的な設備を持つ病院を見学する機会はありませんでしたが、設備やシステムを持つことができない病院を見学する機会はほとんどなく、それゆえに、当院の持つ設備の優れている点、使用できる物品の豊富さを再認識しました。自分自身、最先端の機器に囲まれた病棟で看護ケアを行っており、物品がなければ何もできないという感覚麻痺に近い状態に陥っており、看護の工夫を忘れてしまっていることを痛感しました。Hard面を持つことができないからこそ、それを補おうと考えることやその能力が養われる部分もあるのではないかと、日本の中では地方にある病院に勤める者としてそういう視点も持っていかなければいけないのではないかと考えさせられました。

看護は物品や設備というhard面だけでなく、それを使いこなすべきsoft面である私たち自身にかかっているということをより強く感じることができ、今回のタイ研修における私自身の大きな収穫であると感じています。

どの場面においても、心からのもてなしを受けたことに感謝するとともに、今後さらに深い交流を行うことで、お互いの発展につなげていけたらと思います。



姉妹縁組調印式



「産科」について

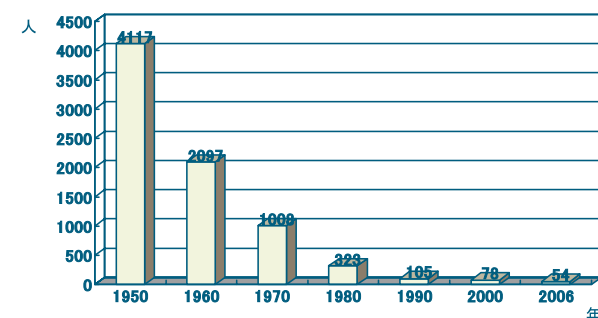
臨床研修部長
産科科長 水之江 知哉

呉医療センター・産科は広島県に7つある地域周産期母子医療センターの一つで、呉医療圏のバースセンターとして機能しています。年間900件以上の分娩を取り扱い、約250件の帝王切開を行っています。呉医療圏の健診・分娩のシステムはセミ・オープンシステムをとりいれており、妊婦健診を妊娠9ヶ月まで開業医で受けていただき、その後の健診と分娩を当院で行うというシステムです。日本全体の妊産婦死亡数の変遷をグラフに示していますが、60年間で妊娠・分娩に関わる母体の死亡数は減少してきてはいるものの、0にはなっていません。母体死亡にいたらなくても命が危うくなった妊婦さんの数はこの70倍もあり、250人に1人が危険な状態になり医療介入を受けているわけです。特に分娩時には大出血など命にかかわることが起こっており、分娩時には母体の急変にすぐに対応できるようにすることが母体の命を守るためには重要なことです。しかし、ひとたび事がおきれば安心な病院でも、健診の待ち時間が2時間を越えることも珍しくありません。妊娠の後期までは、アクセスがよく、待ち時間も少ない開業医で健診を受けていただくのは妊婦さんにとってもメリットが大きいものと考えます。現在は以下に示すようなネットワークが形成され、基幹病院と開業医の連携がスムーズにとられています。

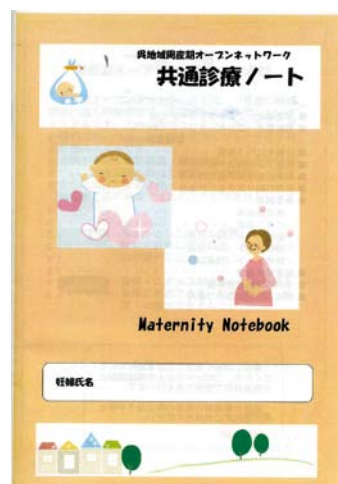
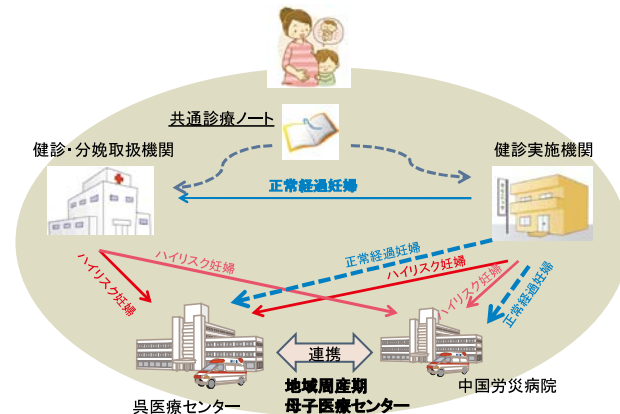
さて、開業医で診て貰っているときに異常が起きたときはどうなるのかというご質問があります。当院と開業医の間には以下のような共通診療ノートというものがあ

ります。この中には妊娠初期の検査のコピーや、妊娠初期の胎児の写真（予定日を決める上で大変重要な写真です）、胎児の発育の状況などの記録があり、開業医での診察の結果を当院でも共有できるようになっているのです。このため、当院に急に受診されても開業医での経過を正確に知ることができます。また、妊娠中にハイリスク妊娠といわれる妊娠高血圧症候群や糖尿病、前置胎盤、切迫早産などが判明した場合は、通常よりも早くから紹介され、当院での管理になることが多いようです。しかし、妊娠中は何も異常がなかったのに分娩時に突然異常がおきることも珍しいことではなく、当院では分娩が安全に行えるよう産婦人科医師以外に麻酔科医師、小児科医師をはじめ多くのスタッフが直接バックアップ体制をとっています。さらに内科をはじめ外科以外にも当院は総合病院としてあらゆる科が妊娠、分娩が安全に行えるよう支えてくれており、東京や奈良で起こった悲しいことが呉で起こらぬように病院全体で妊婦さんを見守っています。

妊産婦死亡の変遷



呉地域周産期オープンネットワーク



「婦人科」について

婦人科科長 竹原 和宏

呉医療センター婦人科では女性特有の病気全般を治療の対象としています。

手術療法や薬を使用した治療から、最近では安全に治療を受けていただくために、治療を行うときに起こりうる有害な事象に対する予防などにも力を入れています。たとえば、卵巣摘出後の卵巣欠落症状（更年期障害様の症状）の緩和や、術後の血栓症、リンパ節摘出術後の下肢浮腫の予防、抗がん剤治療を行う際の嘔吐や下痢、口内炎の予防などです。

呉医療センターは地域がん拠点病院ですので子宮がん、卵巣がんなど婦人科がんの治療にも力を注いでいます。現在の日本の婦人科がんの治療には様々な問題があり、その中の一つに「ドラッグ・ラグ」があります。「ドラッグ・ラグ」とは日本と欧米との間の新薬承認の時間差で、海外で新薬が先行販売され使用されているにもかかわらず、国内では販売されていない状態のことです。これは様々な疾患で問題となっていますが、こと婦人科、卵巣がんの治療では大変重大な問題です。呉医療センターの婦人科ではこれらの問題に取り組むために、海外で使用されていますが日本では日常診療で使用できない薬や、最近開発された「分子標的薬」などの治験を積極的に行っています。最近では2007年に大腸癌、肺癌で使用されている「アバスタチン」を卵巣癌にも使用できるようにと、国立がんセンター（現在の国立がん研究センター）を中心とした全国の10施設で行った治験に参加しました。日本では初となる海外共同試験に参画した医師主導治験といった形でのアバスタチンの日米同時承認を目指すものです。この試験は昨年の8月に終了しましたが、アバスタチンが卵巣がん治療に有効であるとの結果が2009年のASCO（米国臨床腫瘍学会）で一部公表されました。同時に今年の7月2日にイギリスを中心としたグループから同様の結果がプレリリースされたことからEUでは

今年中に、USでは来年にも使用申請がなされる予定です。

このように新しい薬や治療方法を確立していくために治療を始める際に治験や臨床試験（臨床試験と治験はよく混同されますが、臨床試験とは新しく考案された治療法や、新しい薬の有効性や安全性について調べる試験のことで、薬事法上の製造販売承認申請のための試験が治験です。）の説明をさせていただいています。これは試験に参加することを強制するものではなく、現在日本で標準に行われている治療に加え当院では標準治療より効果が見込めるかもしれない（もしかしたら効果は同等かもしれない）治療を選択できるかもしれませんよ、といった選択肢を提示しているとお考えください。臨床試験に参加するためにはそれぞれの試験で適格条件がきめてありますので、逆にすべてのかたに臨床試験を提示できることは残念ながらできません。

このように呉医療センター婦人科では世界で行われている臨床試験の情報を勉強することで常に新しいエビデンスを確認しながら、安全で最良最適な治療を提供できるよう努力をしています。これからも呉医療センター婦人科をよろしくお願いします。



婦人科 手術風景



「小児科」について

小児科科長 宮河 真一郎

みなさん こんにちは。小児科です。

呉医療センター小児科は 7人のスタッフで頑張っています。

私たちは 呉市及び江田島市、東広島市、園周辺地域の子供たちのため日夜頑張っています。

・呉市の救急医療について

昨今マスコミ等で話題になっている小児科医師の減少、人手不足の問題は呉市も決して他人事ではありません。そのために市民の皆さんの協力の下で 呉市医師会、小児科医会、呉共済病院、労災病院といっしょに医師会休日急患センター、夜間救急センターを開設し、2次救急は救急輪番体制を行っています。当院は週に3-4回輪番担当になっています。

・新生児・周産期医療

呉医療センターは年間900人以上の分娩があります。当院では未熟児、低出生体重児、病的新生児に対してNICUを開設し24時間体制で新生児医療を行っています。平成21年度NICU入院患者数400人、帝王切開の256件（平成21年度 926分娩、）立ち会いを行い、安心してお産が行える環境を当院産婦人科と一緒に連携をとって行っています。



・乳児健診・予防接種

当科では乳児健診を毎週火曜日午後に行っておりま。赤ちゃんがすくすく成長しているかどうか身長体重、発達具合を小児科医が診察します。また、毎週月曜日午後には予防接種を行っています。3種混合、はしか・風疹ワクチン、BCGなどの定期接種をはじめ インフルエンザウイルス、水痘、肺炎球菌、インフルエンザ菌、ヒトパピローマウイルス（子宮頸癌）ワクチンなど多数の予防接種も行えます。わからないことがあれば小児科外来へおたずねください。

・一般外来：もちろん 風邪、発熱などの一般急性疾患は毎日午前中 小児科外来、午後は救急外来で行っています。

・慢性外来：午後は慢性疾患の患者さんを中心に外来を行っています。

腎疾患（火曜日）、心理外来（火曜日）、内分泌（水曜日、低身長、肥満、糖尿病、甲状腺など）、血液・腫瘍（水曜日）、アレルギー（水曜日、アトピー、喘息、食物アレルギーなど）、未熟児、NICU外来（木曜日）、循環器（木、金、心エコー）神経、脳波（火、木曜日）です。

お子さんの病気についてはもとより発育、発達、など気になることがございましたら小児科スタッフへいつでもお声をかけてください。



「腎臓内科」について

腎臓内科医長 高橋 俊介

2008年4月、呉地区の腎臓内科診療が呉共済病院へ集約化されることになりました。これに伴って2010年9月現在、呉共済病院の腎臓内科は小野哲也院長先生以下総勢7名の大勢力となり、かわって当院の腎臓内科は1名となりました。腎臓内科の業務は院内対応中心となり、地域連携室を経由した通常のご紹介をお受けできずご迷惑をおかけしている所です。本日は、そんな腎臓内科の業務についてご紹介いたします。

【超音波ガイド下腎生検】

慢性腎臓病という概念が提唱され、腎臓病が狭心症や心筋梗塞といった恐ろしい心臓病の引き金になることが言われています。腎疾患の早期発見、早期診断、早期治療はたいへん重要です。そのために、腎臓の組織の一部を採取して病的に検査する『腎生検』が必要になることがあります。腎臓内科では、標準的な超音波ガイド下腎生検を行なっております。2009年からは、性能の良い新型の超音波装置が配備され、検査の安全性・正確性がさらに向上しました。

【透析室業務】

3階透析室には6台のベッドがあり、主として導入期の血液透析、合併症で入院治療中の患者さんの慢性維持透析を行っています。血液透析以外にも、LDL吸着療法、血漿交換、ビリルビン吸着療法、顆粒球除去療法等の各種血液浄化療法を透析室で行っています。その他、腹水からアルブミンだけを抽出して患者さんの体に返す腹水濾過濃縮還元法という治療も行っています。

【血管アクセス管理】

血液透析では1分間にコップ1杯程度の血液を体外に循環します。そのため、慢性的に血液透析を行うには内シャント等の血管アクセスが必要になります。内シャント造設に関しては、血管手術のエキスパートである心臓血管外科にお願いしています。内シャント狭窄等のシャントトラブルに対しては、腎臓内科の『シャント外来』で日帰りカテーテル手術を行っています。また、内シャント造設が困難であったり、内シャントに耐えられないような心不全症例には、外科の協力のもと長期留置型透析カテーテルの挿入を行っています。

【精神科疾患の腎臓病管理】

当院は精神科と腎臓内科が併設されている呉地区唯一の病院です。精神疾患合併の腎疾患患者に対して、精神科と協力して治療にあたっています。

【妊娠高血圧症候群、腎疾患患者の妊娠】

当院は産婦人科と腎臓内科が併設されている呉地区唯一の病院です。妊娠高血圧症候群は、その昔は妊娠中毒症と呼ばれていた妊娠に伴う合併症であり、中にはネフローゼ症候群と呼ばれる高度の蛋白尿を伴う患者さんもあります。また、慢性糸球体腎炎等の腎疾患患者の妊娠もあります。そういった患者さんには産婦人科と協力して治療にあたっています。

以上、かいつまんで説明いたしました。一言で説明するなら、腎臓内科としての業務のうち腹膜透析以外は当院で行うことができます。呉地区の三次救急病院として、また呉地区の腎臓診療の一翼を担うべく、今後も皆様のお役に立てるよう頑張っております。

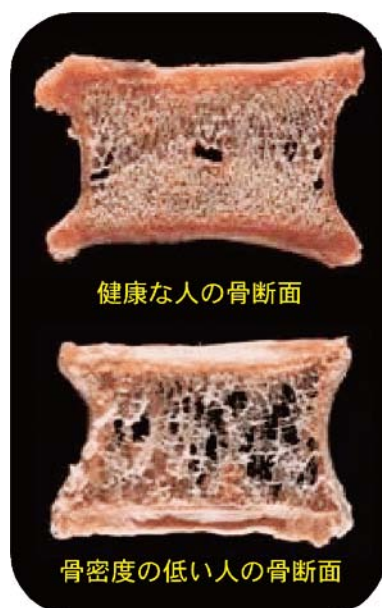


骨粗鬆症(こつしょうしょう)の検査をしてみませんか？

診療放射線技師長 姫野 敬

粗鬆症とは、骨形成速度よりも骨吸収速度が高いことにより、骨に小さな穴が多発して骨がスカスカになってくる症状をいいます。よくご高齢の女性で背中が曲がっている方がおられますが、多くが骨粗鬆症によるものです。

骨粗鬆症の方では、日常生活程度の負荷によっても骨の変形や骨折、骨性の痛みを引き起こすことがあります。そして、骨折による痛みや障害はもちろん、大腿骨や股関節の骨折はいわゆるご高齢者の寝たきりの原因につながり、生活の質（QOL）を著しく低下させることになります。



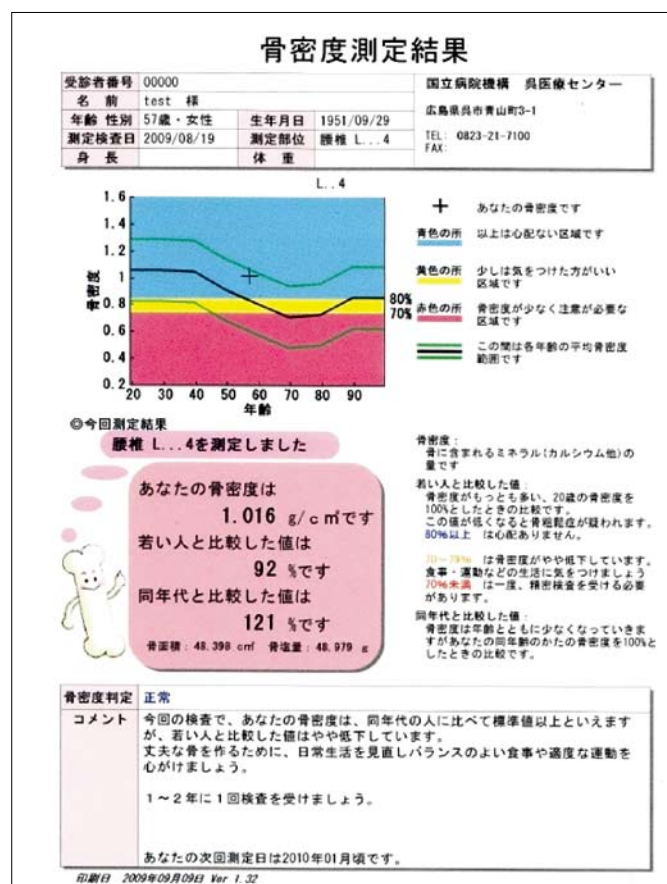
骨粗鬆症は、中年以降に見られ、その8割は女性で、日本においては1000万人の患者がいるといわれています。

そこで、当院では、平成7年から骨密度測定装置を導入してきましたが、平成20年にはより精度の高いDEXA型骨密度測定装置に更新して、現在、診療に利用しています。

もし骨粗鬆症がご心配の皆様は、かかりつけ医院から地域連携室を通して検査のご予約をさせていただくことができます。

また、当院の診療科（整形外科や婦人科等）を受診した際に担当の先生方にご相談していただいても検査のご予約ができますので、ご遠慮なくご相談ください。

どうぞ、お気軽にお申し込み下さい。



マンモグラフィ検査について

診療放射線技師 要田 絵理加

乳房の検査として代表的なものとして、マンモグラフィ検査があります。

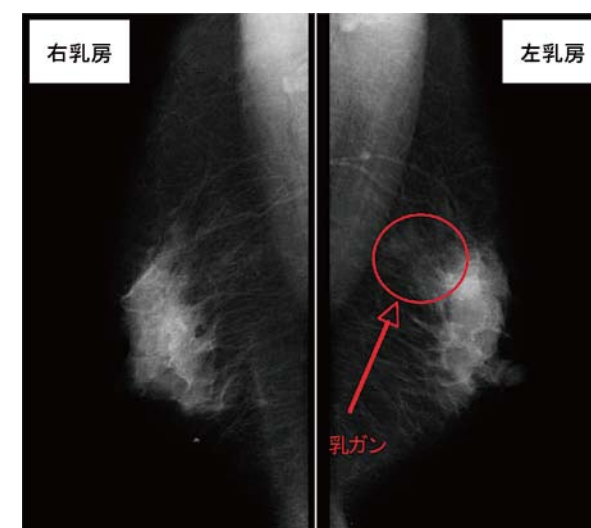
マンモグラフィ検査は、乳房専用の機械で乳房を圧迫して平たく伸ばしながら撮影する検査です。この検査では、視触診では見つけることができないような小さいしこりを見つけることができます。また乳がんには細かい砂のような石灰化と呼ばれるものが含まれることがあるのですが、この乳がんの特徴である石灰化を見つことが可能です。このため視触診と併用することにより、乳がんの発見率が2～3倍になるといわれています。

この検査では、圧迫を強くして乳房をしっかりと薄く伸ばすほど診断しやすい画像となり、使用する放射線の量も少なく済ませることができます。人によっては『痛くて、少ししんどい』と思われる検査ですが、診断しやすい画像を撮影するためにご協力をお願いします。



の施設認定取得により、さらに安全で高品質な検査と画像診断を患者さんに提供できる環境が整ったと考えています。

検査を受けられる方は、『痛い検査なの?』『不安だ...』など、怖いと思われるかもしれませんが、明るい



当院は、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会に評価してもらい2010年5月1日にマンモグラフィ検診施設画像認定を受けました。この認定は、撮影装置を正しく使用しているか？撮影する放射線の量は正しいか？乳房の位置決め（ポジショニング）をきちんと行えているか？撮影した画像が、高精度の画質か？などの評価を受け、基準を満たした施設に認定証が交付されます。今回

環境作りを心がけていますので、安心して検査をお受けください。ご不明な点がございましたらお気軽にスタッフに声をかけてください。

病診 連携



切れ目のない医療・介護を目指して

医療法人 社団永楽会 前田病院
理事長・院長 前田 正博

当院は呉市の中心部に位置し目の前には緑豊かな蔵本公園があります。

昭和23年呉市仁方町に開設し、昭和40年現在地に移転、平成15年に新たに歯科外来を併設し、病院、老健施設、グループホームを一つの建物内に統合した広島県で初めての医療施設となりました。

院長の私は呼吸器内科と放射線科の専門医の資格を有し、外来、病棟の診療の他撮影されたレントゲンのすべてを読影しレポートしております。内科部長は血液内科専門医で貴院から白血病や悪性リンパ腫等の患者さまを受け入れております。

また広島大学から呼吸器、循環器、脳神経、消化器の内科医師の派遣を受け、CT、超音波の他心エコー、上下部消化管ファイバー等の検査も可能で幅広く内科診療に対応し、日帰りドックも行っております。

病棟は一般病床34床、医療療養病棟42床の2病棟で貴院をはじめとした急性期病院からの紹介入院に対応しております。

リハビリテーション科では大腿骨骨折後や脳血管障害後のリハビリをはじめとし呼吸器、心疾患、悪性腫瘍など内科疾患の長期療養によるADLの低下の防止・改善に

努め退院後の訪問リハビリも積極的に行っております。また訪問看護、ホームヘルプ事業による在宅支援を行っており、当法人の居宅支援事業所及び病棟のケアマネジャーがケアプランを計画し、退院後も安心して在宅療養が出来るようにしております。

貴院には救急及び手術や特殊検査・処置の必要な患者さまを長年にわたり迅速かつ快く受け入れて頂き、誠に心強くまた深く感謝いたしております。特に癌症例の手術を多くお願いしてきた外科、呼吸器外科、泌尿器科、大腿骨骨折でお世話になることの多い整形外科、緊急のお願いをする救急外来、呼吸器内科、消化器内科などの諸先生方には重ねて感謝とお礼を申し上げます。

地域連携室の皆様には当院の看護師長が貴院出身であり、いわゆる顔の見える連携で毎日迅速に対応して頂いております。

当院の基本理念である信頼していただける医療と安心していただける介護をもとに切れ目のない医療・介護を目指し、貴院との連携をより緊密にして多様化する地域医療の質の向上に努めてまいりますので今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。



職場 紹介

8 B病棟

看護師長

奥 郁子

〈病棟の特色〉

8 B病棟は、病床数55床の神経内科・糖尿病内分泌代謝内科その他内科の混合病棟です。神経内科は主に、脳梗塞・脳出血、症候性てんかん・パーキンソン病・ALS等で、H22年1月より病棟再編成により糖尿病内分泌内科も加わり糖尿病のコントロール、糖尿病教育の患者さんを受け入れています。

〈看護の実際〉

神経内科は脳梗塞・脳出血が45.2%と大半を占る(図1)。これらは発症後に麻痺や意識障害、筋力低下や言語障害を起こすことが多く、病棟では早期リハビリと共に週2回のエレベーターバスによる入浴・清拭など皮膚の状態を清潔に保ち、WOCや皮膚科医と連携をとり褥瘡予防と早期の処置に力を入れています。また、言語聴覚士と協力し、口腔ケア・嚥下訓練にも力を入れ肺炎などの感染予防に取り組んでいます。

発症後の機能障害により自宅への退院が困難な患者さんが多い為週1回地域連携室(MSW)とのカンファレ

ンスを行い、地域の病院へのスムーズな転院ができるようにしています。またH21年度より脳卒中地域連携パスの運用が始まり約141件のパスを使用して呉地域の回復期リハビリ病院と連携を密にとっています。

糖尿病内分泌内科は、クリティカルパスに沿って個々の患者さんへの個人指導とコメディカルと連携した糖尿病教室を行っています。看護師スタッフで糖尿病チームを編成して勉強会を行い、医師や薬剤師・リハビリ・栄養士と連絡を取り合っており、スタッフが統一した指導を行う事ができるよう取り組んでいます。

〈課題〉

今後はフットケア指導にも力を入れていきたいと考えています。

師長、副師長2名と36名の看護師・看護助手と共に、誠実で優しい看護と、専門性のある看護援助をめざし、患者さんのQOLの向上につながるよう、日々努力していきたいと思っています。

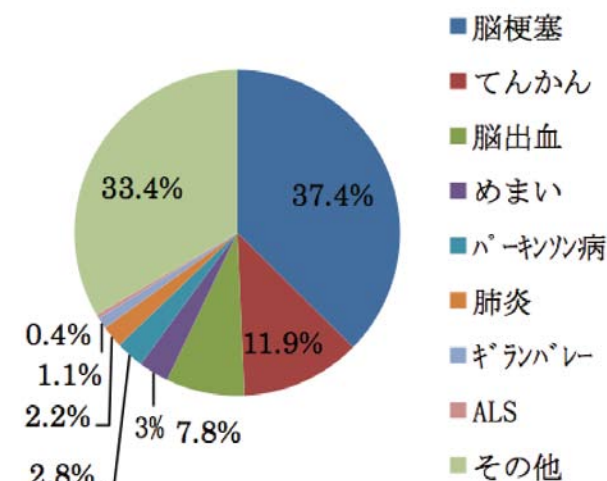


図1 H21年度神経内科疾患別割合



MSWとのカンファレンス風景

職場紹介 9 A病棟

看護師長 栗栖 静江

【病棟の特色】

9 A病棟は、精神科病棟です。病床数50床で身体合併症のある精神疾患患者さんやうつ病、統合失調症など精神症状のある患者さんが入院されています。うつ病や緊張型統合失調症の患者さんに電気けいれん療法を行っており、件数も増加しています。身体合併症には、胆嚢炎、肺炎、骨折、化学療法（乳癌・胃癌等）、糖尿病、脳梗塞、狭心症、白内障、出産目的など様々です。また、認知症患者さんで身体的治療が終了し、ソーシャルワーカーの介入がされている患者さんの受け入れもしています。

表1 精神科電気けいれん療案件数

H19年度	H20年度	H21年度
283件	306件	310件

21年度入院患者の身体合併症の割合

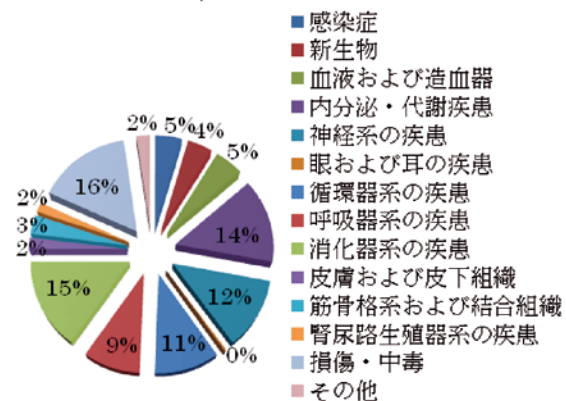


図1 入院患者の身体合併症の割合（N=249）

【レクリエーション】

看護師により患者さんに季節感を感じて頂くよう、お月見会やクリスマス会等のレクリエーションを年3～4回計画しています。クリスマス会ではサンタクロース（？）が参加し、1年目看護師によるハンドベル演奏があります。各レクリエーションではゲームを計画し、少しの時間ですが楽しんでもらっています。また、作業療法士により、平日午前、午後2時間ずつ病棟内で作業療法を行っています。主治医の処方により参加し、手芸やぬり絵、料理、カラオケ、軽スポーツ等計画を立てて行っています。

【看護の実際】

看護体制は、固定チームナーシングで急性期・回復期チームの2チームで看護を行っています。急性期は、身体症状、精神症状共に安全に治療が受けられるような環境を提供し、一日でも早く落ち着けるよう専門的知識を持って患者さんと関わるよう努力しています。特に精神症状が悪化している患者さんの家族の不安に対する配慮やプライバシーの確保に努めています。回復期は、患者さんの思いや気持ちが充分聴けることを目標に、患者さんと向き合う時間を大切にしています。また家族の思いも含めて、地域医療連携室と連携を持ちながら退院支援に努めています。

また、認知症患者さんの家族には患者さんとどのように向き合ったらよいかなど話させていただき、家族の不安を少しでも軽減できるようにと思っています。

患者さんにとって安全でかつ安心して療養ができ、家族の不安の軽減ができるよう、明るい笑顔と挨拶と専門性を持って看護していきたいと思っています。

21年度入院患者の診療科別手術割合

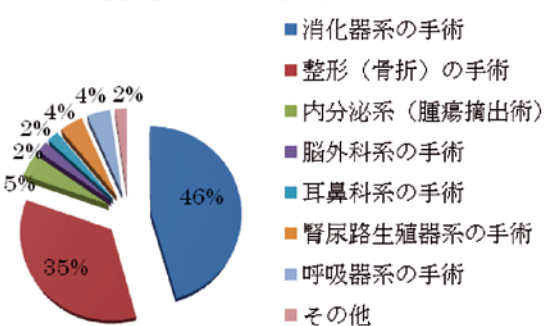


図2 入院患者の診療科別手術割合（N=47）



第45回 呉看護学校学校祭

参加者343名、盛大に開催することができました。

学校祭のテーマには、レインボウ（虹）に輝く学生ひとりひとりの個性を大切に、学校祭成功に向けチームワークを大切に仲間と協力し助け合おう。そして、学校祭の成功は『大きな輝く虹を作る』こととして、看護師をめざす架け橋としたいといった思いが込められていました。

.....

今年は新企画として『バルーンアートの飾りつけ』を取り入れました。講師の先生との打ち合わせには、学校祭実行委員・PNF（前夜祭）実行員、学校の先生にも参加していただき綿密に話し合いました。学校祭のテーマに合わせ統一感のある飾りつけをするために、自分たちの考えた案をもとに、講師の先生からアドバイスをいただきました。会場を先生方と見て歩きながら、メジャーで計測し風船の数を割り出し新たなイメージも膨らんでいきました。

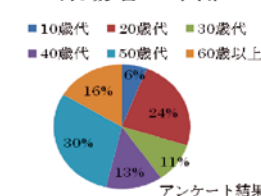
次は学生全員への伝達です。はじめはみんなの反応もまちまちで、うまくいくのか心配でしたが、全員で協力し完成することができました。そして、学校祭に来校して下さった方から「飾りつけがよかった。」と言っていただき本当にうれしかったです。それから、新企画として園芸部による『ハーブの苗の販売（バジル料理のレシピつき）』を行い多くの方に購入していただきました。人気の『お茶席』『バザー』『お化け屋敷』『屋台』、学習を活かした『健康チェック』『アロマ足浴マッサージ』など全員で協力し継続しました。今年の公開講義（学校・学生共催）は、『あなたの手は大丈夫？手洗いを見直してみよう』でした。昨年度も参加して下さった隠れファンもいてくださり感謝いたします。公開講義のご希望がありましたら、学校へご意見をお願いいたします。

なお収益の一部はユニセフへ寄付いたします。ワクチン接種支援につながるペットボトルのキャップの収集も継続し行っています。地域のスポンサーの方々、病院職員の方々、協力くださいました皆様に深く感謝いたします。ありがとうございました。

学校祭実行委員長 北川真梨子、PNF（前夜祭）実行委員長 田中利奈



来場者の年齢



アンケート結果より



ひとりひとりの目指す看護師になる
ためにがんばっています



実行委員がんばりました

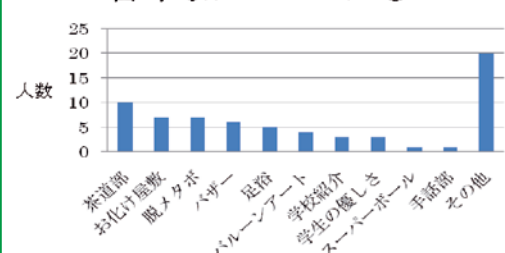


地域のスポンサーの方々や病院職員の方々の協力のもと、呉看護学校祭が盛大に開催でき、みなさまに喜んでいただけたことは、学生たちの大きな喜びと自信となり、患者さんに求められる看護師になるための力となっていくことでしょう。ありがとうございました。そして、もうひとつうれしかったことは学校祭閉会式でのことです。1年生が「先輩の2年生・3年生へ協力に対する感謝を述べたい。」と申し出ました。そして、2年生も「3年生へ感謝を述べたい。」と、それぞれの学年が先輩として後輩としてできる役割を果たし、お互いの協力に感謝し涙し合う姿を見た時、心が熱くなりました。

専修学校は3年間で、授業だけではなく様々な行事をとおり、患者さんに求められる看護師育成をめざしています。その行事において、学生が学生を思いやり協力し合い、成し遂げる経験が、チーム医療に必要な力を育んでいくことでしょう。呉看護学校の良さを改めて感じる事ができました。

教育主事 橋本笑子、教員 伊藤由紀枝

一番印象に残ったもの



その他…
学生がまじめに取り組んでいる様子
学生の笑顔と元氣さ
明るくて全体の印象がよかった



新企画！
バルーンアート



リストバンドも
バルーンで

平成22年 呉看護学校一日体験入学

教育主事 橋本笑子、教員 白砂恭子

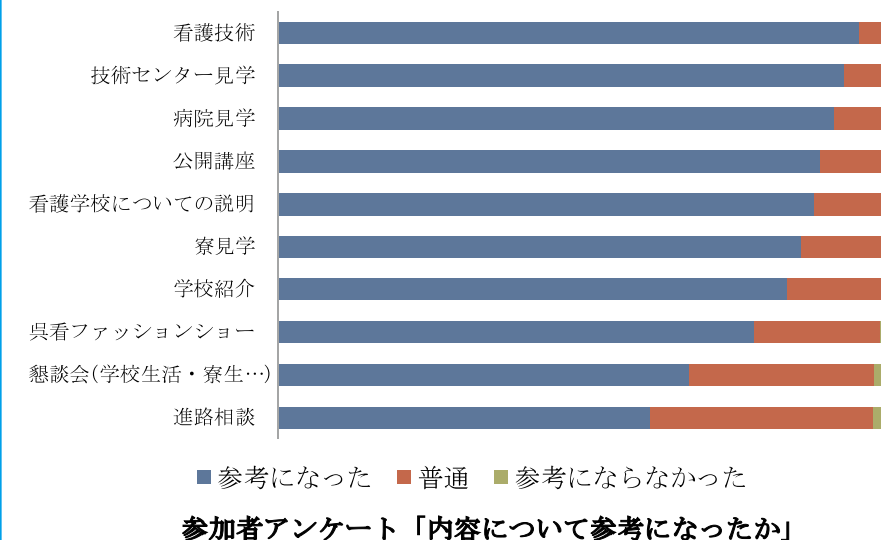
看護学校に興味、関心のある方を公募し、平成22年7月29日、30日と「呉看護学校一日体験入学」を開催致しました。中学生 17名、高校生・一般314名、計331名の皆様に参加頂きました。看護技術の講義や体験、在校生との相談会、進路相談会、呉看ファッションショー、学校紹介を行いました。

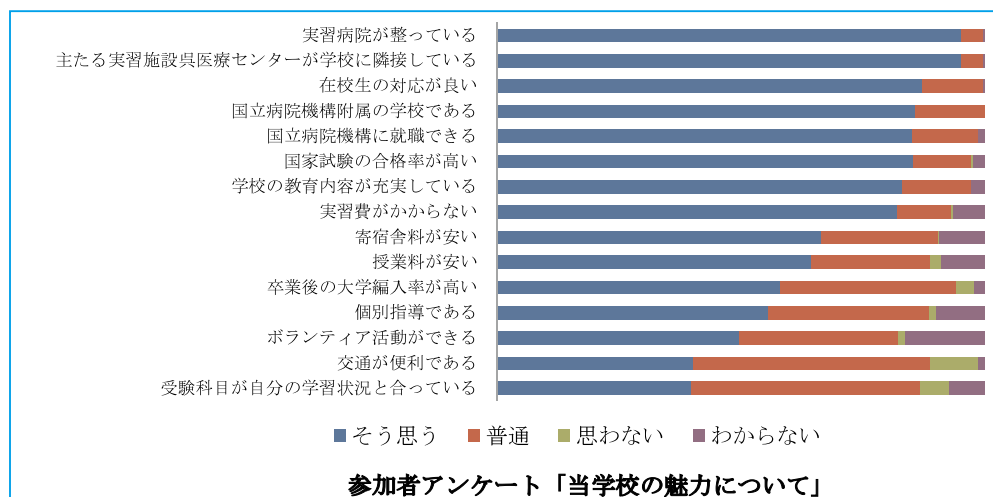
今年は学校・実習施設の見学だけでなく、新企画として隣接の「呉医療技術センター」見学を内容に盛り込みました。

参加者の感想

- 参加した生徒は、今まで以上に看護の道に進みたいという気持ちと、それに伴う努力が必要だということ強く意識する機会になった。(参加してくれた高等学校の先生より)
- 看護師に大切なことは人を思いやることのできる心とコミュニケーション能力だと言うことが分かり勉強になりました。
- 実際赤ちゃんの人形を使って沐浴をさせていただき、思っていた以上に難しく、看護師さんたちがスムーズに行っている姿を見て多くの練習を重ねてきた成果であると感動しました。
- 看護師の仕事は思っていた以上に大変だと思ったが、ぜひ看護の道に進みたいと強く思った。これからは勉強も今まで以上に一生懸命がんばりたい。
- 普段の生活で体験していないことにも進んで取り組み、体験をすることを通して自分の足りない部分を補い教養を身につけたいと思った。
- 自分の未熟さを知ると同時に看護師をめざすにあたり自分のしなければいけないことも理解することができた。
- 初めてのことで積極的に物事に取り組み、分からないときはきちんと聞くことも大切であることを実感した。
- 看護の道を志す者として、素直さ、謙虚さ、心の豊かさ、協調性、コミュニケーション力、責任感などの適性を磨くことも努力したい。
- 今まで以上に看護師になりたいと強く思った。

沐浴…むずかしいなあ





技術研修センター
設備が充実しているなあ



フィジコさん…コンピューターと連動、患者さんの異常の早期発見を学ぶ教材です。



妊婦体験



血圧測定

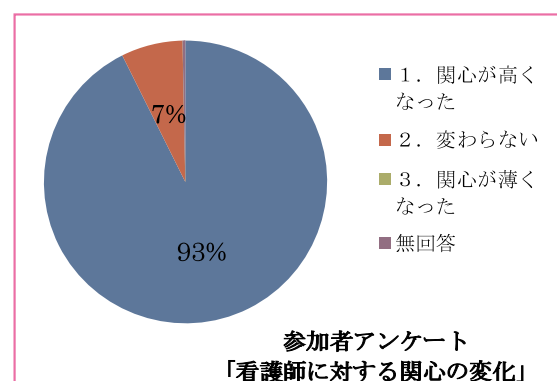


老人体験



救急蘇生

参加者アンケートから、進路決定や看護を目指されるみなさまの今後の学習に向けての一助となれたことをうれしく思います。



本号より、院内に展示されている絵画を「院内美術館シリーズ」として、表紙に掲載することに致しました。ご期待下さい。

編集後記

暑かった夏もようやく去り、涼やかな季節になりました。今年の夏は例年になく過ごしにくかったため、体調を崩された方も多かった事と思います。これからは食べ物のおいしい季節ですので、夏の疲れを癒すには絶好の季節です。おいしいものをたくさん食べて、元気を取り戻しましょう。

編集長